

25th FAPAに参加する前の気持ちをお聞かせください

(廣川) 私たちの大学は、国際大学というだけあって、「海外研修」や「国際教育」に関する案内がよくあります。在学期間中に一度は海外に……と思っていましたが、気付くと5年生になっていて……。今回は国際学会での発表ということもあり、最初は躊躇し少し悩んだのですが、「やっぱり、海外へ！」という気持ちが勝り、参加することにしました。

(原沢) 母校と現勤務先のウエルシア薬局との共同研究の成果を今回のFAPAで発表することが決まって、会社の方から「せっかくだから、卒業生も同行させて経験を積ませよう」とお声をかけていただき、……ホント、ラッキーでした(笑)でも、せっかく参加するんだから、発表研究の内容はしっかり頭に入れていかなきゃ……。そうしたら、「あ、国際学会なんだ……英語もしっかり準備しなきゃ」って。FAPAはアジアで活躍している薬剤師たちとの情報交換ができる場所なので、今、自分が行っている日常業務がどのように受け止められるのか……。そして各国の薬剤師たちはどんな使命感をもって仕事に臨んでいるのか……。そんなことにも興味があったので、とにかく「英語」は少しでも会話ができるようにしていかなきゃって、頑張りました。

(廣川) そうですね。やっぱり、語学は私もすごく不安でした。一人で勉強してもモチベーションが維持できないときがあったりして……。海外に興味のある友達と一緒に勉強することで、なんとが英語学習を継続することができました……。 (笑)

実際に参加してみて、いかがでしたか？

(原沢) 廣川さんがいうように、モチベーションって大事だね。私は薬剤師として働き始めて3年目なんだけど、日々の仕事にも慣れてくると、入社当時に胸に秘めていたハングリーさっていうのか、理想の実現ってことよりも目の前の現実ばかりに目が向いてしまって……。それはそれで悪いことではないし、そこにいる1人の患者さんに寄り添うことはとても重要なんだけど、どこかでルーティンになっているような……。そんな時に、海外の薬剤師の仕事を知ることには、とても刺激になりました。

(廣川) そうですね。日本で大学生をしても、頭では「広い視野で物事を考えよう」って思っているけど、実際に外に出てみると、「私の毎日は、なんて狭い世界で生活しているんだろう」って改めて気づかされました。思っていることや考えていること、それを実際に行動で示すことってというのがホント難しいんだって……。

(原沢) でも今回、自分からFAPAに参加しようって決意したことは、十分「行動」に移せたってことなんじゃないかな？ それから「視野を広げる」ってことも、考え方ひとつでいろいろなことができるのかなって。新しい経験をすることは、もちろん視野を広げてくれるんだけど、そこで何を感じ、感じたこと

をしっかりと咀嚼して、自分のものにしていくって作業がすごく大事だと思う。例えば、私は日常的に仕事でジェネリック医薬品を扱っているけど、薬局の経営的側面っていつのかな、後発品調剤率はかかりが頭にあって扱っていたの。でも、FAPAでの発表の中に、「ジェネリックの使用は医療費の削減やGDPにも好影響を及ぼす」って……。頭ではわかってきたことなんだけど、「行動に移せていなかった」ことで、結果、そうだった情報をうまく処理できず、視野が狭くなっていたのかなって……。最近では情報が多くて、「今、必要」な情報は活かしやすいんだけど、その時にあまり意識していない情報は、どんどんこぼれ落ちていって感を感じました。もっといろいろな角度から物事を考える習慣が定着するように毎日の生活から意識を変えていかなきゃって思いました。

(廣川) でも、FAPAに参加していたアジア各国の薬剤師の方々は、ホント「熱かった」ですね！大学でもプレゼンテーションをする授業とかあるけど、あんなに自然な議論ができなくて……。皆さん、仕事や自分自身に「自信」とか「使命感」ってものがすごくあるんだって……。自分自身を振り返って反省しました。

(原沢) ホント、皆さんすごかったね！私も、「もっと頑張らなきゃ！」ってすごく感じました。一方で、興味のある議論があっても、語学力が足りなくて二の足を踏んでる自分も歯がゆくて……。勉強しなきゃいけないことが、たくさんリストアップされました(笑)。

(廣川) やっぱり、コミュニケーションって一言にしちゃうと、なんか簡単なことに感じてしまうかもしれないけど、「お互いを理解する」ってことは本当に難しいことなんですよ。法律や生活様式……。そして民族的特徴っていろいろか考え方や価値観の違うアジア各国の薬剤師の方々と昨日今日会って、いきなり「理解」とか「共感」って無いですね。でも「薬剤師」とか「医療」、そして「生命の尊厳」みないなことは世界共通の概念なんだなって思えだし、もっともっと、「薬剤師の使命」を深く考えれば、そこからいろんなコミュニケーションがとれるんですよ！

(原沢) うん。私はFAPAで出会ったアジアの薬剤師の方々は、今でも連絡を取り合ってるんだ。お互いの国での薬剤師の仕事についての情報交換とか……。でも、その繋がりがあって、FAPAに行く前に比べ、今では仕事に対して誇りと責任をもって臨めます。ホントに今回、FAPAに参加したことが、私の財産になりました！



原沢和美 2011年卒業 伊勢崎清明高校出身(群馬県) 第一学院高校出身(茨城県) ウエルシア薬局株式会社 勤務
廣川理久 5年生 第一学院高校出身(茨城県) ウエルシア薬局株式会社 勤務

会営志津川薬局・女川薬局見学ツアーはいかがでしたか？

(石出) 正直、「震災」って言葉をどこかに忘れていたのかな？って。

(佐藤) ホントだね。最初に仙台駅に降り立った瞬間、その都会風景を目の当たりにして、震災って言葉は頭をよぎらなかつたもん。でも、……一歩山間部に足を向けると、そこでは復興が進まず、震災の爪痕がいたるところに残っていて……。テレビや雑誌で見聞きしている情報って、リアリティーに欠けているところがあって……。それって自分自身の意識の問題でもあるんだろうけど、正直、改めて「震災」がこの国に与えたことを再認識させられました。

(児島) 東日本大震災が起きて、もう3年以上も経っているんだよね。震災時に薬剤師が何をしていたのか、そしてその後の復興支援にどんな形で携わってきたのか……。正直、薬学生としては恥ずかしいのかもしれないけど、これまで何も分かっていなかったのを、これを機に薬剤師の職域の広がっているもの一つでも感じ取れればと思って……。

(石出) それにしても、Mobile Pharmacyはすごかったよね。移動式薬局！消防車や救急車といった緊急車輛として医療過疎地域や高齢化率の高い地域なんか配置されたら、地域医療に貢献できるだろうなって。

(佐藤) でも、薬局は開設に関して法律的な制約があるから常時稼働っていうのも難しいのかもしれないね。それから、「車」という移動手段が有るか無いかってことは確かに大事な事なんだけど、それをうまく運用していく住民の方々の団結力っていうのが、地域力っていうのも大事な事なんだよね。

(児島) この車には無線LANや衛生通信機能が完備されているから、地域の地理情報や住民情報なんか管理できそうだけど……。そういえば、現地の薬剤師さんが仰っていたよね。「土地を知らない人」がいても、緊急時の地域医療支援にどこまで役に立つのかって……。

(石出) 今回の震災では、人も家も流されて……。孤立した避難者に、どうやってアクセスできるのかっていうのには土地勘も必要だろうし、その人たちが抱えている健康問題だって本人の記憶だけが頼りになってしまう……。でも分業率が75%だったこの地域では、薬剤師さんたちの頭に多くの患者さんの薬歴が残っていて……。だから薬歴も流されてしまった時だからこそ、地域とのつながりっていうのが、地域に足を踏み込んで活躍していたことが活かされたって……。頭では地域医療とか、人とのつながりが大事だってわかってたけど、そうやって1人の患者さんの命の支えになったってことをお聞きすると、薬剤師が日常的に行っている仕事の一つひとつの意義を改めて考えさせられるし、そういった心づもりでこれからの学習を主体的にやらなきゃって気持ちになるよね。

(佐藤) うん。全国各地の薬剤師さんが復興支援に向かったってニュースで耳

にしたことがあったけど、「現地での支援」には限りがあったんだね。でも現地で支えただけで支援ではないだろうし、後方支援として物資輸送にかかわる仕事だって、緊急対応時にはすごく大事な仕事だったんだって。そういえば、震災直後に使っていた薬袋も見せてもらったよね。薬袋に直接薬歴が書き込めるような工夫がなされていたよね。

(児島) そうだったね。ちょっとした知恵と工夫。そしてそれを瞬時に実行できる判断力と行動力。まだまだそんな力は身につけていないけど、これからはそんな薬剤師を目指したいなって思ったんだ。

(佐藤) あと、医薬品の供給についてもいろいろ勉強になったよね。当時処方箋には「薬剤」の記載はなく、「疾患」や「症状」の記載だけだったって。きっと医師も薬剤の管理状況が把握できなかったから、現場での混乱を避けるために、そして薬剤師を信頼して……。当時、薬剤師さんは管理可能な薬剤から患者さんに適った薬剤を選択し、分量(日数分)まで調節して……。1人の患者さんのこと、そして地域全体の医薬品供給についてのこと……自覚と責任をもって患者さん真摯に向かい合う姿って……。私は将来そんな薬剤師になれるのかなって……。

(児島) でも、だからこそ今回の経験を一過的なものにならないために、これからの学生生活においても、ちゃんと頑張らなきゃいけないんだよね！

(石出) 今回のツアーへの参加は、最初は軽い気持ちっていうのか、全てが経験だろうなって感じで参加したけど、実際に現場を見ることや現地の方々の話を直接聞くことって、重みが違うなって感じました。振り返ってみると私自身、その瞬間は「意欲」が湧いたけど、それを維持継続することがなかなか出来なかったかなって。だから、ホント毎日の自分自身をしっかりと律することができるようにこれから日々頑張らなさい。

(佐藤) うん。私たちもお互いを刺激しあえるように！どうしても1人だと思いが継続できないときもあるから……。この経験を、これからの大学生活に！



佐藤 風花 3年生 石出 光 2年生 児島 由里 3年生
東京家政大学附属女子高校出身(東京都) 稲毛高校出身(千葉県) 東葉高校出身(千葉県)



城西国際大学の6年制薬学教育



「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。



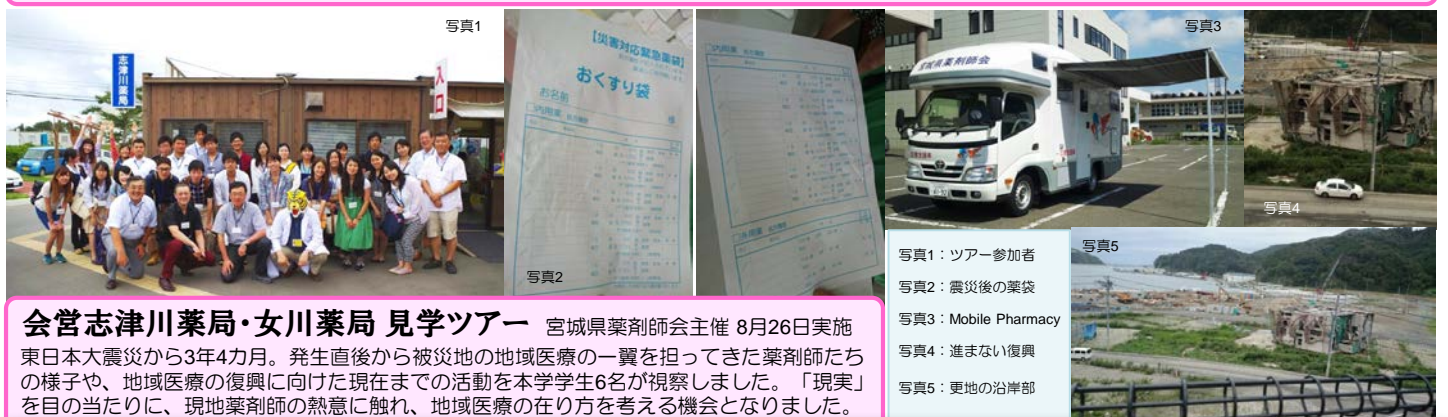
2015年4月 カリキュラム改訂 これからの社会に必要とされる医療人に。

JIU薬学部が、あなたの「自己実現」を支えます!!



25th Federation of Asian Pharmaceutical Associations Congress Kota Kinabalu Sabah, MALAYSIA 9-12 October 2014

2012年にインドネシアで開催された第24回大会アジア薬剤師会連合学術大会に続き、マレーシアで開催された第25回大会でも本学学生（5年生 廣川理久）が「Barriers to implementing practice research in Japanese community pharmacists」のタイトルでポスター発表を行いました。また学生を指導した山村重雄教授（臨床統計学研究室）は、同大会にてFAPA副会長に選出されました。



会営志津川薬局・女川薬局 見学ツアー 宮城県薬剤師会主催 8月26日実施
東日本大震災から3年4カ月。発生直後から被災地の地域医療の一翼を担ってきた薬剤師たちの様子や、地域医療の復興に向けた現在までの活動を本学学生6名が視察しました。「現実」を目の当たりに、現地薬剤師の熱意に触れ、地域医療の在り方を考える機会となりました。

2015年度生 募集 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>